

表 10 算数科年間指導計画例（第3学年）

学期	教科書(東京書籍)教材名	通常の学級の指導時数	自閉症・情緒障害学級の指導時数	増減	時数増減の理由及び配慮すること
1学期	かけ算	10	10	0	
	時ごとと時間のもとのめ方	5	5	0	
	わり算	12	12	0	
	円と球	9	9	0	
	たし算とひき算の筆算	10	10	0	
	暗算	2	2	0	
	あまりのあるわり算	11	12	+1	あまりのだし方に習熟し、わり算の基本を定着させる。
2学期	考えるちからをのぼそう	1	1	0	
	大きい数のしくみ	11	11	0	
	かたちであそぼう	1	1	0	
	かけ算の筆算(1)	15	15	0	
	どんな計算になるのかな	1	1	0	
	大きい数のわり算	3	3	0	
	長いものの長さのはかり方	6	7	+1	計測器具の使い方に慣れて、実践的な力を付ける。
3学期	小数	12	14	+2	小数の意味理解や位取りの仕組みについて理解できるようにする。
	三角形	10	10	0	
	分数	11	13	+2	量を表す分数に十分習熟する。
	口をつかった式	4	2	-2	応用的な内容で理解が難しい。
	全体と部分に目をつけて	1	1	0	
	かけ算の筆算(2)	13	14	+1	2位数や3位数の乗法の筆算の定着を図る。
	ぼうグラフと表	9	9	0	
3学期	かたちであそぼう	1	1	0	
	重さのはかり方と表し方	9	9	0	
	考えるちからをのぼそう	1	0	0	発展課題等の時数は基礎基本の充実にあてる
	そろばん	3	1	-2	発展課題等の時数は基礎基本の充実にあてる
	3年生のふくしゅう	4	2	-2	発展課題等の時数は基礎基本の充実にあてる
	総計	175	175	0	

計測器具の使い方を習熟する学習については時数を増やしています。

表 12 算数科年間指導計画例（第5学年）

学期	教科書(東京書籍)教材名	通常の学級の指導時数	自閉症・情緒障害学級の指導時数	増減	時数増減の理由及び配慮すること
1学期	整数と小数	5	5	0	
	直方体や立方体の体積	13	13	0	
	小数のかけ算	14	14	0	
	小数のわり算	16	16	0	
	どんな計算になるのかな	1	1	0	
	合同な図形	11	11	0	
	偶数と奇数、倍数と約数	11	11	0	
2学期	単位数あたりの大きさ	16	16	0	
	かたちであそぼう	1	0	-1	基礎的・基本的な学習を中心にする。
	考える力をのぼそう	2	0	-2	基礎的・基本的な学習を中心にする。
	分数と小数	6	8	+2	分数と小数の関係について理解できるよう、具体物を用いた学習を行う。
	算数の目で見てみよう	2	0	-2	基礎的・基本的な学習を中心にする。
	図形の角	8	8	0	
	分数のたし算とひき算	11	13	+2	異分母同士の分数のたし算・ひき算に至るまでの通分・約分等の説明に時間をかける。
3学期	四角形と三角形の面積	13	15	+2	面積の公式を導き出し、覚え、計算できるようにするために、時間をかけたため。
	百分率とグラフ	15	16	+1	学習内容を理解し、定着を図るため。
	考える力をのぼそう	1	0	-1	基礎的・基本的な学習を中心にする。
	かたちであそぼう	1	0	-1	基礎的・基本的な学習を中心にする。
	正多角形と円周の長さ	11	12	+1	学習内容を理解し、定着を図るため。
	分数のかけ算とわり算	6	8	+2	分数という数量概念が理解しにくいので、面積図等を用いるなどして説明に時間をかける。
	角柱と円柱	5	5	0	
3学期	算数の目で見てみよう	2	0	-2	基礎的・基本的な学習を中心にする。
	算数おもしろ旅行	2	0	-2	基礎的・基本的な学習を中心にする。
	5年のふくしゅう	2	3	+1	まとめ及び発展課題の時数は、基礎基本の重視にあてる。
	総計	175	175	0	

基礎的・基本的な学習を中心にした場合、発展課題等に配当されていた時数を調整し、重点的に取り組む単元に振り分けれます。

表 11 算数科年間指導計画例（第4学年）

学期	教科書(東京書籍)教材名	通常の学級の指導時数	自閉症・情緒障害学級の指導時数	増減	時数増減の理由及び配慮すること
1学期	大きい数のしくみ	7	7	0	
	角の大きさ	10	10	0	
	わり算の筆算1	18	18	0	
	垂直・平行と四角形	16	16	0	
	折れ線グラフ	6	6	0	
	考える力をのぼそう	1	0	-1	応用的な内容で理解が難しい。
2学期	そろばん	2	2	0	
	小数のしくみ	10	12	+2	小数の位取りの仕組みについて理解できるようにする。
	わり算の筆算2	17	17	0	
	整理のしかた	4	4	0	
	計算のきまり	9	9	0	
	面積のはかり方と表し方	12	12	0	
	分数	11	13	+2	仮分数や帯分数をなおす方法を理解できるようにする。
3学期	変わり方調べ	5	5	0	
	かたちであそぼう	1	0	-1	抽象的な図形を作成することが難しい。
	考える力をのぼそう	1	0	-1	応用的な内容で理解が難しい。
	小数のかけ算わり算	18	20	+2	小数×整数・小数÷整数の計算方法を理解できるようにする。
	直方体と立方体	12	12	0	
	がい数の表し方	8	8	0	
	どんな計算になるのかな	1	0	-1	応用的な内容で理解が難しい。
3学期	かたちであそぼう	1	0	-1	抽象的な内容で理解が難しい。
	算数おもしろ旅行	2	0	-2	応用的な内容で理解が難しい。
	4年のふくしゅう	3	4	1	4年生で学習した内容を復習を通して深めるため
	総計	175	175	0	

発展的な課題の時数は減らしてあります。

表 13 算数科年間指導計画例（第6学年）

学期	教科書(東京書籍)教材名	通常の学級の指導時数	自閉症・情緒障害学級の指導時数	増減	時数増減の理由及び配慮すること
1学期	円の面積	8	8	0	円の面積(円周率は3)を求める公式を覚えて面積を求める。
	文字と式	3	3	0	
	分数のかけ算	11	11	0	分数のかけ算のやり方を説明し、計算問題を繰り返し取り組ませる。
2学期	分数のわり算	14	14	0	分数のわり算のやり方を説明し、計算問題を繰り返し取り組ませる。
	対象な形	13	13	0	線対称と点対称の図形の特徴を覚え、識別できるよう取り組む。
	比と比の値	11	11	0	比の値を求める。
	拡大図と縮図	10	10	0	拡大図と縮図の特徴を理解する。
	速さ	13	13	0	速さを求める公式を覚えて時速を求める。
	角柱と円柱の体積	5	5	0	体積を求める公式を覚えて体積を求める。
	およその面積	7	7	0	
3学期	比例と反比例	20	20	0	2つの量の比例と反比例の変わり方について理解する。
	資料の調べ方	15	15	0	グラフの見方を理解する。
	場合の数	7	7	0	
	量の単位のしくみ	9	9	0	長さ、重さの単位関係の比較をする。
	計算トレーニング	9	9	0	基礎基本を重視し、計算の習熟度を上げる。
	算数卒業旅行	9	0	-9	発展課題の時数は、基礎基本の重視にあてる。
	算数のまとめ	20	20	0	個別指導を中心に行う。
総計	175	175	0		

高学年では、学習内容の定着に差が生じてくることに配慮して、個別指導を重視しています。

10 自立活動のための児童・生徒の実態の把握

自立活動の指導内容を検討するため、東京都教育委員会で作成した「社会性・行動のチェックリスト」を活用します。「社会性・行動のチェックリスト」は、対人関係、順番やルールの理解、情緒のコントロールについて、児童・生徒の観察に基づいて記入するチェックリストです。チェックリストを基にレーダーチャートを作成することで、それぞれの児童・生徒に対して重点的に指導すべき項目を浮き彫りにすることができます。

「社会性・行動のチェックリスト」の活用について

「社会性・行動のチェックリスト」に児童・生徒一人一人の様子を観察して記入します。チェックリストの記入・集計により、個別の指導課題だけでなく、学級全体の傾向も把握することができます。

例えば、「指導者と1対1の場面」の平均値が、「感情の抑制」について低くなっていたとします。また、「集団の中での行動」の平均値が「会話の調整」、「話し合い・相談」について低くなっていたとします。この結果から、学級全体の傾向として、「児童・生徒が感情をコントロールし、自分の意見を適切に述べて話し合いをすることに困難がある。」ことがわかります。

このような傾向をもとに、自立活動の指導内容を検討します。

例えば、「話し合い活動において自分の意見をもち、相手に伝えようとすることができるようになる」といった学級目標を設定し、指導することが考えられます。

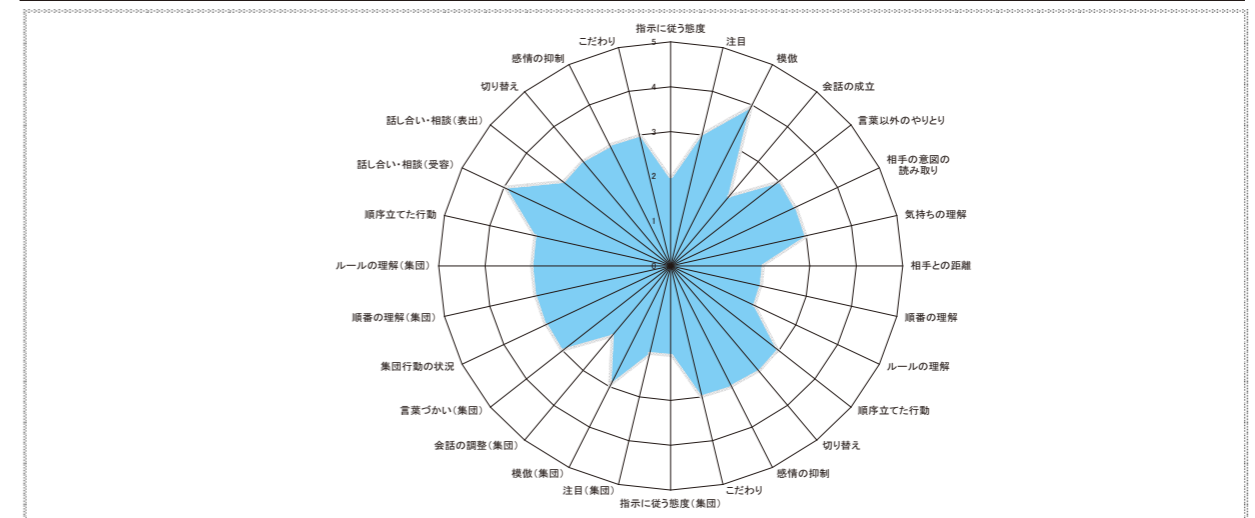
そして、自立活動の指導内容に話し合い活動を取り入れ、児童・生徒が自分の意見を適切な方法で相手に伝えるとともに、相手の考えや気持ちを受け止めることができるようになることを目指して指導計画を作成します。

そのほかにも、「指導者と1対1の場面」に比べて、「集団の中での行動」の評価が低かったり、ばらつきが見られたりする児童が多くないか等の視点から傾向を分析することもできます。このような傾向があれば、集団の中での社会性やコミュニケーション能力をいかに高めていくことができるかについて、指導目標を設定し、指導内容を検討することが考えられます。

例えば、人と接する上でのマナーや、相手の意見を聞き、共感したり、自分の考えや気持ちとの折り合いをつけられるようにすることを目標に、自立活動の時間の指導計画を作成していくことが考えられます。

表 14 社会性・行動のチェックリスト

社会性・行動のチェックリスト 対象児童() 記入者() 記入日 年 月 日		観察項目等	観察内容	○できない ○課題がある	○できることもある ○少しできる ○ほとんどできる	○時々できる ○まあまあできる ○時々課題になる	○ほぼいつでもできる ○ほぼ課題になる	○いつでもできる ○普通にできる ○よくできる ○全く課題がない	結果	特記事項
指導者と1対1の場面	対人関係	指示に従う態度	指示に従って行動する等	1	2	3	4	5	2	
		注目	指された場所・ものに注目する等	1	2	3	4	5	3	
		模倣	簡単な動作の模倣、手遊び等	1	2	3	4	5	4	
		会話の成立	会話が成り立つ、質問等の適切に答える等	1	2	3	4	5	2	
		言葉以外のやりとり	アイコンタクト・表情や態度の意思疎通	1	2	3	4	5	3	
		相手の意図の読み取り	表情の理解や指し示しだけで着席する等	1	2	3	4	5	3	
		気持ちの理解	相手の気持ちが理解できる等	1	2	3	4	5	3	
	順番やルールの理解	相手の距離	物や人との適切な距離の把握等	1	2	3	4	5	2	
		順番の理解	相手と順番を守ってやり取りできる等	1	2	3	4	5	2	
		ルールの理解	ルールを守ってやり取りできる等	1	2	3	4	5	2	
	情緒のコントロール	順序立てた行動	スケジュールにそって一人で活動する等	1	2	3	4	5	3	
		切り替え	感情の切り替えができる等	1	2	3	4	5	3	
集団の中での行動	対人関係	感情の抑制	自分の感情をコントロールできる等	1	2	3	4	5	3	
		こだわり	こだわりが出てしまう等	1	2	3	4	5	3	
		指示に従う態度(集団)	指示に従って行動する等	1	2	3	4	5	2	
		注目(集団)	指導者の指示に注目する等	1	2	3	4	5	2	
		模倣(集団)	簡単な動作の模倣、手遊び等	1	2	3	4	5	3	
		会話の調整(集団)	声のトーンや言葉の抑揚、間のとり方、声の大きさ等	1	2	3	4	5	2	
	順番やルールの理解	言葉づかい(集団)	正しい語句、丁寧な言葉、慣用語で話す等	1	2	3	4	5	3	
		集団行動の状況	列に並んだり、みんなが何をやろうとしていることも見て活動できる等	1	2	3	4	5	3	
		順番の理解(集団)	集団のルールが分かり、守りながら活動できる等	1	2	3	4	5	3	
		ルールの理解(集団)	集団のルールが分かり、守りながら活動できる等	1	2	3	4	5	3	
		順序立てた行動	集団の流れの中でスケジュール等のそって活動する等	1	2	3	4	5	3	
		話し合い・相談(受容)	話し合い・相談の場面で、人の意見を受け入れることができる等の受容	1	2	3	4	5	4	
情緒のコントロール	話し合い・相談(表出)	話し合い・相談の場面で、自分の意見を適切に表出できる。(表出)	1	2	3	4	5	3		
	切り替え	気持ちの切り替えができる等	1	2	3	4	5	3		
	感情の抑制	自分の感情をコントロールできる等	1	2	3	4	5	3		
	こだわり	こだわりが出てしまう等	1	2	3	4	5	3		



11 自立活動の指導の例

自閉症・情緒障害学級における自立活動の指導内容例を挙げます。

児童・生徒一人一人のアセスメントを基に、指導内容を工夫し検討します。自立活動の指導は、個に応じたものであることに十分留意する必要があります。

(1) 自立活動の指導例について

話合いの場面で自分の気持ちを適切に伝えることや、ゲームなどの活動において友達と一緒に（チーム）であることを理解して、自分の考えを相手に伝えることができるとともに、相手からの働き掛けも受け止められるようになることを目指した指導例を挙げています。

表 15 自立活動の指導内容例

単元	単元の内容
どんな気持ち？	表情のイラストからどんな気持ちなのかを想像することや、相手がうれしいと感じる言葉掛けなどについて学習する。
ルールを守ってゲームをしよう	グループ編成をし、ボール遊び・キャッチボール・椅子取りゲーム・輪投げ・カルタ・ビンゴ・的あて・すごろく・フルーツバスケット・じゃんけん列車・リレーゲームを行う中でより良い参加の仕方を学ぶ。
交流及び共同学習に参加するために	通常の学級と交流及び共同学習をする際の自己紹介の仕方や挨拶、話合い活動の参加の仕方について学ぶ。
クラスのいいところ	クラスのいいところ探しから、さらに良いクラスにするためにはどのようなことをお互いが心がけていったらよいか。
公共施設や公共の交通機関について	地域の公共施設や交通機関を利用するときのルールやマナーについて学ぶ。
こんなときどうする？	友達と仲良く遊ぶために守ること、相手の気持ちを考えて行動すること、友達や先生と関わる際の約束など
相手の気持ちを考えよう	SSTカードや人形劇から場面、表情、気持ちを読みとっていくとともに、適切な行動について話し合い、練習をする。
表情を見て気持ちを考えよう	表情カードを使ってのコミュニケーション・気持ち当てゲーム・二人組でのリレーなど協力して行うゲームを行う。
わたしは誰でしょう	自己紹介をクイズ形式で行う。
考えてみよう 自分探しの旅	自分のいいところや直したいところを考えて、書きだしたり、友だちに言ってもらったりして自分を見つめ直す。
得意と苦手	多様な感覚に関すること、予定の変更、変化、見通し、勝ち負け、初めてのことなどについて自分自身を振り返り、人はそれぞれ得意と苦手があることを知る。
みんなで協力して遊ぼう	風船とうちわを使ったサッカー型のゲームやベースボール型のゲームを簡単なルールから理解し、全員で楽しめるようにする。
集団行動のマナーを身につけよう	相手や場に応じたコミュニケーションを習得する。
学校行事を成功させよう	通常の学級と一緒に演奏や競技を事前に練習し、自信をもって集団参加できるようにする。
ゲームをしよう	ゲームは全員賛成で一致したものをを行う。担任とのペアや子供同士のペアなど、対戦の仕方を段階的に設定する。

(2) 自立活動の指導のポイント

- ◆自閉症の児童・生徒は、自分の感情や情動をコントロールすることが難しい場合もあるので、自分を落ち着かせることができる場所に移動してその気分を鎮めること（「クールダウン」）などの方法を指導することが大切です。
- ◆自閉症の児童・生徒は「自分がどのような人間であるのか」といった自己の理解が困難な場合があります。そのため、友達の行動に対して適切に応じることができないことがあります。このような場合は、体験的な活動を通して、自分の得意なことや不得意なことの理解を促したり、他者の意図や感情を考え、その対応方法を身に付けたりする指導を関連付けて行うことが必要です。
- ◆自閉症の児童の場合、言葉による遊びの説明を理解できず、遊び始めてしまうなど、ルールを理解していない場合があります。このため、ルールを段階的に指導したり、ロールプレイによって適切な行動を具体的に学習したりすることが必要です。

12 交流及び共同学習で配慮することについて

交流及び共同学習の場面における授業の参加状況や、話合いや相談活動への参加について児童・生徒の状況を把握します。

(1) 交流及び共同学習の学習態勢チェックリストについて

交流及び共同学習の場面における授業の参加状況や、話合いや相談をする活動への参加について児童・生徒の状況を把握します。

授業の参加において交流先の教室で円滑に自席に着くことができるか、話合いの場面で自分の意見を発言する様子（強く主張したり、他人の意見に耳を傾けられなかったりすることはないか）を見ていきます。

休み時間等の構造化されていない時間帯についても問題なく参加できているか、不安になったりしていないかの様子を観察します。

実態把握の結果を生かして、それぞれの児童・生徒にとって無理がなく「やってよかった」と思える交流及び共同学習を実施していきます。